

2024 年度国賠同盟弘前支部総会開く



6月30日、弘前市駅前記念会館で2024年度国賠同盟弘前支部の総会が開かれました。

総会が開かれる前から齋藤義雄さんのアコーデオンの乗って歌声が鳴り響き、20名の参加者が一堂に会しました。松島明さんの司会進行で、▼第一部：講和柴田文男氏「国会請願行動に参加して」▼第二部：総会と続きました。

第一部で、柴田文男さんの印象深かった言葉は「戦争と弾圧は手をつないでやってくる」でした。弾圧が荒れ狂った治安維持法下で拷問され命を奪われた先人たちに思いを馳せ、彼らの闘いのバトンを国賠運動は引き継いでいるのだと思

NO. 602

編集発行人 田中幹夫
治安維持法犠牲者
国家賠償要求同盟

〒113-0034
東京都文京区湯島 2-4-4
平和と労働センター全労連会館内
電話 03-5842-6461
FAX 03-5842-6462
振替 00110-6-97793
定価 50円

いました。講話の終わりに、柴田文男さんから板柳町五林平にある柁沢良のお墓を訪れ顕彰したいとの提案がありました。

第二部の総会は、田中寿太郎さんを議長に選出し、平戸支部長の挨拶から始まりました。

戦時中強制連行されて亡くなった朝鮮人を悼む追悼碑が、今年一月行政代執行で撤去された高崎市県立公園「群馬の森」の問題や関東大震災時多くの朝鮮人たちがデマによって警察や自警団によって虐殺されたことを悼む式典に、小池百合子都知事が追悼文を出すことを断り続けていることなどは、日本の加害の歴史、負の歴史を直視していないことの結果である。「福田村事件」「亀戸事件」等を例にとりながら人種的民族の偏見や憎悪を煽る言動（ヘイト）への危惧が強まる今日、それは戦争の足

青森県版

2024年8月15日発行

第 386 号

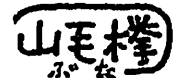
〒038-0904
青森市茶屋町 11 番 5 号
TEL 017-718-3166
FAX 017-718-3167

青森県本部

音とともにやってくる。加害や負のある「再び戦争と暗黒政治を許さない」の強い思いを新たにしました。

来賓の安藤県議から挨拶を受けた後、活動報告と方針を討議し、次のお話し合いました。

▼今年度も署名1500筆に挑むこと。▼会員拡大は当面70名、今年度中に75名を目標とする。▼8・15終戦の日、12・8開戦の日街宣行動、9・18柳条湖事件「満州事変」、7・7盧溝橋事件「日中全面戦争へ」のチラシの新聞折り込みをし、国賠同盟を多くの人に知らせていく。▼国賠内外での学習活動の活発化。▼新春の集い等を今年度も開催。▼東北ブロック交流集会への参加など。▼役員体制は支部長 平戸富治 事務局長 窪田恵子 会計監査 齋藤律子。



「謝罪」には、過去の行いに同意せず、二度と同じことをしてはいけないとの意味が込められている▼

ブラジル政府は7月25日、第2次大戦中に日系移民を「適性外国人」と見なして居住地から強制退去させ、資産を接収した「サントス事件」と、戦後の動乱に伴うアンシッタ島での収監・拷問について誤りだったと認めた▼過去の人権侵害などを審議する政府の恩赦委員会が、「日系移民を迫害したブラジルの過ちを認め、二度とこのようなことが起こらないよう、後世に語り継ぎたい」と表明し、国として初めて公式に謝罪した▼計14万人以上の日系人を強制収容したアメリカとカナダの政府は、1988年に謝罪し、存命者1人2万ドル(250万円)を補償した▼日本の政府は、「治安維持法は適法に成立し、適法に執行」論を採用し、治安維持法犠牲者に対して、いまだに謝罪もせず、補償もしていない。

(平)

青支部 6月に4名の新会員を迎える

東青支部では6月に4名の新会員を迎えました。

この間、高齢化に伴う自然減が続き、会員現勢が大きく後退している中で、支部総会を開催しました。総会直後の理事会で、仲間増やしの目標とつながり対象者を明らかにし、早速行動を開始しました。

国賠同盟の存在は「黄色署名」や「伊藤千代子」で大きく知られています。いま「新しい戦前」に着実に近づいている中で、「再び暗黒政治を許さない」を設立目標に掲げている国賠同盟は打って出なければなりません。

来年は、治安維持法が施行されてから百年を迎えます。

若い世代の多くは「治安維持法」という言葉すら知りません。また、「昔話」ととらえて、「今は先にやる必要がある」となりがちです。

「戦後の特高官僚」の著者、柳河瀬精氏（故人・元中央本部長）は、「昨日を忘れたら明日は見えない」と本の巻末に記しています。今春、同盟中央本部は学習テキスト「治安維持法とは何か」を発行しました。

戦争する国にしないために、大いに学習・交流を深めながら、引き続き仲間を増やしていきたいと思えます。

（東青支部 吉田 祥子）

高杉さとさんの思い出…

青森県本部
国賠同盟事務局長 細川弘彦

2008年、斉藤ナミさんの紹介で国賠会員になり、高杉さとさんとお会いしました。元々、高杉さんは生健会・新城班班長で生健会絵手紙教室の先生でした。当時、生健会と国賠事務所は青森市長島地区にあり、いつも出入りしていて、そんな私を新町の様々な街頭宣伝に誘ってくれたおかげで、各団体との繋がりができました。

初めてお会いした頃、高杉さんは八十歳前でしたが、パソコンを使いこなし、国賠に
関係するチラシや文書作成をスラスラとこなし、びっくりしました。
また、高杉さんは各運動団体の役割などを説明してくださったり、各政党についてもいろいろと教えてくれました。
今、特に思い出すが、高杉さんが椅子を倒すと、同じ事務所内の一階にある新婦人の事務局の方が「高杉さん、大丈夫だが」と心配して二階に駆け上がって来てくれたことがあり、とても印象に残っています。
高杉さんと最後に会話ししたのは2019年8月で、高杉さんが入院する2週間前でした。高杉さんに呼ばれて、各団体への会費を頼まれたことが最後でした。その後、新型コロナウイルス禍となって会うことができなくなりました。新型コロナさえなければ施設にも会いに行けたのになあ…。

第35回国賠同盟青森県本部大会を開催します

日時：8月23日（金）

午後1時から3時まで

場所：アピオあおもり 大研修室2

※当日はDVD「燃やし続けた炎」（26分）を上映
します。

【燃やし続けた炎】—治安維持法の時代を学ぶビデオ（26分）

多喜二を山宣を虐殺し数十万人を弾圧した治安維持法、全アジアに侵略をすすめた天皇専制の「神の国」時代の生々しい実態を告発…各地の犠牲者を訪ね、戦前のフィルムを多用してたどる感動のビデオ。家庭や集会の学習に最適。 VHS・DVD 各1000円

私は馬の絵を描いています。今年5月、コロナ禍を理由にして休んでいた「馬の絵展」を6年ぶりに開催しました。3日目に孝夫と



私の出会った子どもたち・・・
「孝生」（たかお・仮名）

一戸 義規

妻の旭子（2歳下）の2人が会場に来てくれました。2年ほど前にこの稿で紹介しましたが、私はこの夫婦の結婚披露



～絵手紙～

野坂 峯子（東青支部）

宴に招かれて祝辞を述べたのです。学級担任でもなく学年主任でも部活の顧問でもなく「生徒指導主任」としてでした。孝生は中学2年生頃から、遅刻して学校に来て、授業には参加しない。学年の教師集団の指示には従わず早退し、放課後は地域であそび、夜に出歩するなど「要指導生徒」の一人でした。

その孝生が、「馬の絵展」の会場で突然「中学校時代にもっと勉強しなかったな・・・。もう一回学校さ戻りてな・・・。」と言ったのです。妻の旭子が「なに言っているの、あんたにはムリだって・・・。」とやり返していました。

当時、孝生は同学年の健太と行動を共にすることが多かったが、健太には喫煙・

飲酒、万引き、暴行などを繰り返すボスのな行動がありました。学校に来た時に教室の窓から机を外に投げ捨てることもありました。私は、彼らが違法行為で警察に補導されたりしないように過激な非行を止めるための「対話」を続けていました。しかし彼らに教室で学習に参加するように促したことはありませんでした。「教室に戻るように」という教師の指導に彼らが反発して、問題行動がさらに過激になるかもしれな

いと考えていたからです。

その後私は、30歳になった孝生の「もっと勉強しなかった・・・。」という言葉がずっと気になつていたので、2人を誘って焼肉屋で食事をす

ることにしました。

一杯入ると孝生は当時のことを「健太は、誰かがそばにいてなだめていないと暴れてしまふ。自分は健太と一緒にいて健太がこれ以上暴れないようにしてきた・・・。ホントはみんなと教室にいたかったができなかった・・・。」と話しました。

確かに、孝生はグループの中では「非暴力」で緩和剤の役割を担っているのは当時から私も感じていました。しかし、学級担任Aや学年主任Bの指導には従うことはなく、グループから離れることもありませんでした。教師AやBと対立

し、どんどん評判を落としていきました。それでも私は「対話」を止めませんでした。しかし彼らから「本当は教室でみんなと勉強したい」という思いを聴きだすことはできませんでした。

彼が卒業してから15年、私が退職してから12年、酒の力を借りて、ようやく当時の非行少年と言われた孝生の思いを聴き取ることができました。

改めて自分の未熟さと教師の仕事の難さが分かりました。

